

第1回「駅ホーム縁端部視認性向上のためのWG」

議事次第

日時：平成29年3月3日（金）10:00～11:30

場所：経済産業省別館2階 各省庁共用235会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

- 1) 「駅ホーム縁端部視認性向上のためのWG」の設置について
- 2) 駅ホーム縁端部の視認性向上策の現状と課題について
- 3) 今後の検討内容と進め方について
- 4) その他

4. 閉会

<資料>

- ・資料1 「駅ホーム縁端部視認性向上のためのWG」の設置について
- ・資料2 駅ホーム縁端部の視認性向上策の現状と課題
- ・資料3 今後の検討内容と進め方

第1回「駅ホーム縁端部視認性向上のためのWG」出席者

日時:平成29年3月3日(金)10:00~11:30

場所:経済産業省別館2階 各省庁共用235会議室

委員	順不同、敬称略	備考
鎌田 実	東京大学大学院 工学系研究科・新領域創成科学研究科 教授	
中野 泰志	慶應義塾大学 経済学部 経済学科 教授	
小林 章	国立障害者リハビリテーションセンター学院	
井上 賢治	(医)済安堂 井上眼科病院 院長	
鈴木 浩明	(公財)鉄道総合研究所 研究開発推進部 主管研究員	
澤田 大輔	(公財)交通エコロジー・モビリティ財団 バリアフリー推進部 担当課長	
三宅 隆	(福)日本盲人会連合会 情報部長	
榎原 賢二郎	(公社)日本網膜色素変性症協会(JRPS)	
武田 歩	北海道旅客鉄道(株) CS推進部 お客様サービス室長	
佐藤 修	東日本旅客鉄道(株) 安全企画部 安全システムG 課長	
木下 有	東海旅客鉄道(株) 安全対策部 新幹線安全対策室 担当課長	代理出席
田中 祥督	西日本旅客鉄道(株) 鉄道本部 駅業務部 企画課 担当課長	
前川 友幸	四国旅客鉄道(株) 営業部 業務課 課長	
神崎 諭	九州旅客鉄道(株) 鉄道事業本部 施設部 担当課長	
小池 謙治	京成電鉄(株) 鉄道本部 計画管理部 安全推進担当課長	
橋本 欣二	南海電気鉄道(株) 鉄道営業本部 工務部 工務課長	
前園 悟	東京地下鉄(株) 鉄道本部 安全・技術部 課長補佐	代理出席
酒井 和則	東京都交通局 総務部 安全対策推進課長	
松岡 利弘	大阪市交通局 鉄道事業本部 鉄道統括部 鉄道バリアフリー企画担当課長代理	代理出席
山本 典彦	(一社)日本民営鉄道協会 技術部 次長兼土木課長	
佐藤 哲夫	(一社)日本地下鉄協会 技術部長	代理出席
中山 康二	国土交通省 鉄道局 技術企画課長	
東平 伸	国土交通省 鉄道局 技術企画課 課長補佐	事務局
深田 遵	国土交通省 鉄道局 技術企画課 課長補佐	事務局
佐々木 義文	国土交通省 鉄道局 技術企画課 係長	事務局

「駅ホーム縁端部視認性向上のためのWG」の設置について

1. 目的

駅ホームにおいて、ホームと線路部分のコントラストを高めるなどホーム縁端部の視認性を向上させることは、弱視者及び一般旅客のホームから線路への転落防止に有効である。

このため、ホーム縁端の視認性向上策を検討するため、「駅ホーム縁端部視認性向上のためのWG」を設置する。

2. 検討項目

- 各種視認性向上策及びホーム縁端部の視認性向上策の実態把握
- 視覚障害者の協力を得て、視認性向上の評価実験の実施
- 駅ホーム縁端部の視認性向上策の検討
等

3. 委員会構成（別紙参照）

学識経験者等，障害者団体，JR・民鉄・公営等の鉄道事業者，国土交通省鉄道局

4. 検討スケジュール

- 検討期間 平成28～29年度
- 数回のWGを開催し検討
 - 第1回WG 平成29年3月3日
 - 第2回WG 詳細時期未定
(駅ホーム縁端部視認性向上策に関する実態調査及びヒアリング調査を踏まえて検討)
 - 第3回WG 詳細時期未定
(駅ホーム縁端部視認性向上策の方式の選定に関する実証検討及び設計要件に関する実証検討を踏まえて検討)
- (その他，必要に応じて別途サブWGを開催し，協議を行う)

(別紙)

第1回「駅ホーム縁端部視認性向上のためのWG」

委員名簿

順不同 敬称略

鎌田 実	東京大学大学院 工学系研究科・新領域創成科学研究科 教授
中野 泰志	慶應義塾大学 経済学部 経済学科 教授
小林 章	国立障害者リハビリテーションセンター学院
井上 賢治	医療法人社団済安堂 井上眼科病院 院長
鈴木 浩明	公益財団法人鉄道総合技術研究所 研究開発推進部 主管研究員
澤田 大輔	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 バリアフリー推進部 担当課長
三宅 隆	社会福祉法人日本盲人会連合 情報部長
榊原 賢二郎	公益社団法人日本網膜色素変性症協会 (JRPS)
並木 正	弱視者問題研究会 代表
武田 歩	北海道旅客鉄道株式会社 CS推進部 お客様サービス室長
佐藤 修	東日本旅客鉄道株式会社 安全企画部 安全システムG 課長
木下 貴	東海旅客鉄道株式会社 安全対策部 担当課長
田中 祥督	西日本旅客鉄道株式会社 鉄道本部 駅業務部 企画課 担当課長
前川 友幸	四国旅客鉄道株式会社 営業部 業務課 課長
神崎 諭	九州旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部 施設部 担当課長
小池 謙治	京成電鉄株式会社 鉄道本部 計画管理部 安全推進担当課長
橋本 欣二	南海電気鉄道株式会社 鉄道営業本部 工務部 工務課長
荻野 智久	東京地下鉄株式会社 鉄道本部安全・技術部 技術担当 課長
酒井 和則	東京都交通局 総務部 安全対策推進課長
鍋島 寛之	大阪市交通局 鉄道事業本部鉄道統括部 鉄道バリアフリー企画担当課長
山本 典彦	一般社団法人日本民営鉄道協会 技術部 次長兼土木課長
石島 徹	一般社団法人日本地下鉄協会 業務部長
中山 康二	国土交通省 鉄道局 技術企画課長

以上

駅ホーム縁端部の視認性向上策の現状と課題

1. 現在見られる視認性向上策の例

- ・ 現在見られる視認性向上策の代表例は縞模様方式と色帯方式である。（電気設備が必要なものを除く）
- ・ これらは主に一般旅客を対象としている。

縞模様方式	色帯方式
<ul style="list-style-type: none"> ・ 縞模様によって注意喚起を促す方式。 ・ 色の組み合わせや縞の幅は多様。 ・ 海外まで見渡せば、縞模様が縁端に直交する向きのものもある。  	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色帯によって注意喚起を促す方式。 ・ 色や帯の幅は多様。 ・ CPラインと称されることもある。  

2. 課題

(1) 縞模様方式の課題

- ・縁端部以外に縞模様が使われている例がある。



(2) 色帯方式の課題

- ・ホーム縁端警告ブロックと平行であるため、色帯とホーム縁端警告ブロックの弱視者による識別性について検証が必要。



カラー画像 → モノクロ変換

(参考) 縞模様方式の場合、弱視者が視覚障害者誘導用ブロックと誤認する可能性は低いと想定される。



カラー画像 → モノクロ変換

今後の検討内容と進め方

駅ホーム縁端部の視認性向上策に向けて、平成29年度に以下の検討を実施したい。

1. 駅ホーム縁端部視認性向上策に関する実態調査

1.1 目的

全国の鉄道事業者において実施されているホーム縁端部の視認性向上策の実態を把握する。

1.2 方法

(1) 全国の鉄道事業者に向けてアンケート調査を実施

※可動式ホーム柵やホームドアが設置されていないホームを対象とする。

質問内容例→・ホーム縁端部における視認性向上策導入の有無

- ・導入に至る経緯
- ・具体的方法
- ・今後導入する予定
- ・ホーム縁端部以外に縞模様を設置している箇所の有無
- ・その他（本WGで想定される塗る・貼る式以外の実施例）

(2) 選定した駅における実測調査

ホーム縁端部の視認性向上策を導入済みの駅において、縞模様もしくは色帯の詳細（幅、色、輝度コントラストなど）を実測する。

2. 駅ホーム縁端部視認性向上策の有効性に関するヒアリング調査

2.1 目的

縞模様方式と色帯方式で考えられる効果と課題について、当事者等の意見を調査する。
縁端部視認性の重要性や視認性向上策の必要性についても併せて調査する。

2.2 方法

- ・有識者（4名程度）、歩行訓練士（4名程度）、ロービジョン者（12名程度）を対象とする。
- ・特定の地域に偏らないよう、少なくとも首都圏と関西圏で実施する。
- ・ロービジョン者については属性（視機能の程度、疾患の種類、単独歩行の年数など）が偏らないように配慮する。
- ・両方式の説明には、画像（印刷もしくはPC）もしくは床材シートを用いる。

3. 駅ホーム縁端部視認性向上策の方式の選定に関する実証検討

3.1 目的

縞模様方式と色帯方式の効果と問題点を比較して、いずれか一方を選定する。

(注) 上記ヒアリング調査等の結果から方式を選定出来る場合は省略もあり得る

3.2 方法

- ・ 模擬ホーム等を活用し、ホームの縁端部に両方式を仮設して、ロービジョン者等による評価実験を行う。
- ・ ロービジョン者は50名程度を想定。
- ・ 実験条件は縞模様方式と色帯方式を各2種類(2方式×2パターン=4種類)程度を想定。

4. 駅ホーム縁端部視認性向上策の設計要件に関する実証検討

4.1 目的

上記で選定された方式が効果を発揮するための設計要件を明らかにする。

4.2 方法

- ・ 模擬ホーム等を活用し、ホームの縁端部に当該方式を仮設して、ロービジョン者等による評価実験を行う。
- ・ ロービジョン者は50名程度を想定。
- ・ 考えられる検討要素(これらを含むように複数の実験条件を仮設することを想定)

縞模様方式	色の組み合わせ(輝度コントラスト), 縞の太さ, 縞の向き(角度), 縞帯の幅, 等
色帯方式	色, 幅, 背景との輝度コントラスト, 等

以上